

学校目標

人間尊重の精神を基に、健やかな心身、高い知性、豊かな心を育み、たがいに「なかよくのびる安宅っ子」

児童の実態

- ・ 指示されたことは、何とかやり遂げるが自分で考えて主体的に取り組む児童が少ない。
- ・ 自分なりに考え、まとめて表現することを苦手とする児童が多い。

めざす児童像

- ・ 自分の考えをもち主体的に学ぶ子
- ・ 相手意識・目的意識をもって自分の言葉で表現する子
- ・ 他と交流しながら自分の考えを広げたり深めたりする子

研究主題

自分の考えをもち、自分の言葉で表現する子

～ 国語科を基盤とした言語活動を通して～

学校生活全般

活用力(思考力・判断力・表現力等)の向上

国語科

〈活用の場の工夫〉

- ・ 表現の場として「書く」活動を取り入れた単元構成の工夫
- ・ 「読むこと」領域と他領域を関連づけての指導
- ・ 多様な考えをもてる課題設定の工夫
- ・ 書いたものをもとに交流する場の工夫

活用

他教科等

言語活動の充実による
確かな学び

活用

言語活動の充実

言語活動を通しての指導

定着

〈基礎基本の力の習得〉

- ・ 「読むこと」のつけたい力の系統性をふまえた指導
- ・ 「読みの手立て」を探る教材研究
- ・ 既習を振り返り学習に活かす工夫
- ・ 自分の考えをもつ時間と交流の場の設定

中学校との連携
(九年間を見通した指導の共通理解)

授業改善・児童理解
家庭学習の充実等
児童・生徒間の交流

〈学習意欲の向上〉

国語科では

- ・ 児童自身がめざす姿を意識する手立て
- ・ 自己の学びを自覚できる評価の工夫
- ・ 実生活に即したゴールの設定
- ・ 学習の見通しをもつ工夫
- ・ 考えたくなる言語活動の工夫

〈言語環境の充実〉

- ・ なぎさタイム等の有効活用
- ・ 読書に親しむ工夫
- ・ 日常生活での言語環境の整備

〈共感的な学級づくり・自己肯定感を育む児童理解〉

〈家庭・地域との連携〉